令和８年度　岐阜県アレルギー疾患対策推進協議会　議事概要

日　　時　令和８年１０月８日（木）１６時００分から１７時００分まで
開催方法　オンライン開催
出 席 者　磯貝　光治：（一社）岐阜県医師会　常務理事
　　川本　典生：岐阜大学医学部附属病院小児科　臨床教授
　　西垣　公順：（公社）岐阜県歯科医師会　常務理事
　　大西　浩子：（公社）岐阜県看護協会　常務理事
　　長屋　紀美江：（公社）岐阜県栄養士会　会長
　　平下　智之：（一社）岐阜県薬剤師会　副会長
　　寺田　武義：岐阜市立則武小学校　校長
　　樋口　あゆみ：患者会代表（西濃アレルギーの会 HUG 代表）
　　寺本　貴英：岐阜県喘息・アレルギー系疾患対策事業連絡協議会委員長
　　久保田　芳則：岐阜県岐阜保健所　所長
　　大野　弥生：岐阜市保健所地域保健課　副主査

事 務 局　小山　貴広：岐阜県健康福祉部保健医療課　課長
　　井藤　　毅：　　〃　　難病対策係長
　　鹿鳥　雅子：　　〃　　技術主査

１．報告事項

○アレルギー疾患対策の実施状況等について

令和７年度の本県におけるアレルギー疾患対策の実施状況について事務局から報告

・市町村の母子保健、災害対策におけるアレルギー疾患対策について
・令和８年度に実施した市町村保健師等向けアレルギー疾患対策研修会について
　今後も母子保健対策、災害対策を進める中で、アレルギー疾患対策の視点も含めて取組を継続していく。
・学校でのアレルギー対応について

令和７年度の拠点病院における取り組みの実施状況について川本委員から報告

・勉強会、市民公開講座、セミナー等の開催について
・学校現場、行政向けのアレルギー疾患電子メール相談事業について

２．議事

○今後のアレルギー疾患対策の方向性について

現在の課題に対する取り組みと、さらに必要な取り組みについて
→それぞれの立場から意見交換等を実施（主な意見等は別紙のとおり）

別紙

令和８年度　岐阜県アレルギー疾患対策推進協議会における主な意見等について

■母子保健におけるアレルギー疾患対策について

・市町村保健師等向け研修会では、乳幼児の湿疹対策にも触れられており、市町村の支援に非常に有効である。今後も研修会が継続されるとよい。

・市町村としても、研修会等に参加し、最新の知識を取り入れていくことが必要である。

・小児のアレルギー疾患対策は進んできており、引き続き進めていく。

■災害時のアレルギー疾患対策について

・アレルギー対応食の備蓄は進んできているが、例えば避難所で薬を忘れてきてしまった場合には、保健師、看護師、薬剤師会等と連携して支援する必要がある。

・薬剤師会では、災害薬事コーディネーターが各地域の薬剤を確保する体制をとる。

・岐阜薬科大学はモバイルファーマシーを保有。県内で広範囲となる地震が起きた場合は、各地からモバイルファーマシーが来て支援を受けることになると思うが、患者さん自身でも一定の備蓄が必要。薬剤の備蓄においては様々な問題があるが、引き続き考えていく必要がある。

・栄養士会でも災害時に対応できるスタッフの育成を進めているが、県との連携がより具体に進むとよい。

■学校におけるアレルギー疾患対策について

・学校現場ではシミュレーション訓練の実施により、職員全員で対応を確認している。児童の給食についても複数人でのチェック体制を大切にしている。

・点鼻薬のネフィーについては、テクニックが必要であり、ある程度練習が必要であるが、小型で利便性も高く、注射ではないため使用もしやすい。今後、普及が進んでいくと思われる。

■成人期におけるアレルギー疾患対策について

・中年から高年齢の方の喘息の重症化も問題になっており、今でも喘息でなくなる方が成人、特に高齢者で目立ってきている。ＯＴＣの一部自己負担化を理由に高齢者がドロップアウトすることも危惧される。

・県内は喘息の専門医もそこまで多くはなく、喘息の診療が、特に成人領域に関して広く等しく行き渡っている状況ではない。食物アレルギーを持つ児が大人になったケースは、大学生や社会人になっても小児科で診ている状況があるため、医療提供体制を全県、全国的に整えていく必要がある。

・災害時等の環境の変化や、ストレスにより発作が起きることがあるといったポスター等による啓発を、高齢者が集まる場所や健康診断の会場等で行うなど、工夫できるとよい。